名電工高新聞

編集兼発行
名電工高新聞部
印刷所
共生印刷株式会社

校訓
勤誠
勉実

高校生活を考えよう

生徒会活動を回顧して

生徒会顧問

年々歳々花相似たり歳々年々人同じからず……まためぐって卒業生諸君を送るときがやってきました。昭和四十八年度の生徒会活動を総括してほしいとの注文ですが、これは実に厄介な問題です。というのは平凡なうちに、これといった特色のないままにこの年度を終わろうとしているからです。前年度は学園六十周年ということで記念祭行事がにぎやかに催され、いささか活況を呈したのですが、その後をうけてか地味な内容に終始したきらいがあります。

四月当初の新入生歓迎大会から生徒会行事の幕が開きます。短期間の準備のうちに要項を決め、あとはクラブ員の活躍にすべてを託すということになるわけです。広い県体育館の会場をところせましと躍動するクラブ員の模範演技は、新入生はもちろんのこと、皆にも楽しいものです。短時間に十分な紹介を望むのは無理というものですが一人でも多く新入部員をと意気ごむ先輩クラブ員のさまが印象的です。毎年少しずつでも新しい工夫が加えられれば主催する生徒会としても成功といえましょう。

雨で計画どおり実施できないというジンクスめいた感じをもつ球技大会は、前期生徒会の担当です。暑さも加わり、だらだら何となく疲れたなあと思っているうちに終了するわけですが、まとまった会場で運営できればもっと盛り上がり、熱っぽい声援も期待できるのにとぼやくことになります。決勝ともなると応援にも熱がはいりますが、多くは関係なしと傍観者にかわる何ともしまらない大会ということになります。

生徒会行事最大のものは秋の学校祭です。運動会はここ数年、瑞穂競技場と会場も定着し、プログラムはというと、いささかマンネリ化してきているようです。クラス対抗式の種目、応援合戦など全生徒が参加しているといった意識がもてるよう工夫したいものです。

文化祭も一つのパターンが定まった感じで、特に生徒自らの手による計画実行が随所に感じられるような内容豊かな催しが要求されそうです。今後に望むことは、展示会にしても体育館行事その他にしても、高校生らしい若さと、鑑賞にたえる内容、味わいある表現を全校あげて盛り上げることと期待できるような運営が大切かと考えます。

一月に開催される吹奏楽部定期演奏会の手伝いも生徒会の担当と認められるようになってきたようです。外部の人たちとの接触の機会として意義があるでしょうし、生徒として、マナーを実習するのに適当かとも考えます。

さて年間の行事の回顧に説明をさいてきましたが、生徒会本来の活動についても、反省してみる必要があります。生徒会議会については、その運営の難しいこと、議題の貧弱なこと、討論らしい討論が育たないこと、全生徒と生徒会関係生徒との連絡が不十分なことなど、いろいろ問題点をあげれば枚挙にいとまがないくらいですが、とかく高校での生徒会活動が低調であるとはよく云われてきていることでもあり、特別教育活動の一分野に甘んじている傾向もあると思います。

さて、発言すれば学校批判となり、生徒指導上の諸規則に対する不平であったり、議題も○○の自由、○○を自由にしてほしいとなります。あげくのはてには生徒会で議決をしても実行されないとして、生徒会不信と直結してしまいます。そこには、すでに古くなったことばですが"断絶"が支配的となり、問題解決の端緒をもつかみえない状態となります。しかしこの際紹介しておきますが、前に挙げた学校行事を計画し実行する担当生徒たちは、執行部役員をはじめとして、それぞれ一つのことをやりとげたという満足感をもってあたってきたと信じています。未熟であっても生徒の手で計画し、一生けんめい実行していくことに意義を見出して、行くべきだと考えています。

生徒会としてとり組む問題は多くあるとおもいますが、学校生活を価値あるものにするため、生徒として実行できる問題からとりあげていきたいものです。たとえば先生の手をわずらわすことなくお互いで話し合い、気をつければすむことがたくさんあるわけですが、そうしたことに生徒会活動の目をむけていくことは無意味なことでしょうか。勉強にしても、環境の改善にしても将来への進歩と成長のための段階として前向きに、しかも地道にとり組んでいきたいものです。そして相互信頼の場を育てていく機会を生徒会に見出せたらと夢みながら回顧にならない回顧の拙稿の筆をおきます。

校内運動会風景 (10.8)

この一年を想う

生活指導部

月日の経つのは早い。もうこの一ケ年も終ろうとしている。新しい卒業生も巣立つこととなる。

想うに、この一年は国内的にも国際的にも余り明るいニュースは少なかった。毎日の新聞紙上には世相の暗い面ばかりが出されていた。特に石油危機を契機に、国民生活の不安定がもとに、社会は混乱状態に陥ろうとした。人々は自分さえよければよいというエゴイズムの傾向も激しくなった。こうした社会状勢の中にあって青少年達がすくすくと育ってゆくことには、余りに障害が多過ぎた。

しかし、若い人達の力はこうした困難に打克ってゆくところに若い特権がなければならない。若しも自分の欠点を社会の所為に帰して平気でいるような青少年が多ければ多いほど、その社会は堕落してゆくものと思わねばならない。これから青少年は総てが新しい立派な社会を建設するという意気に燃えて、今こそ立上らなければなるまい。

振返って、生徒諸君のこの一年間の足跡を辿って見よう。若干の人数ではあるが社会悪の中へ落込もうとする弱い生徒のいることは否定できない。統計的に見ると、補導を受ける数も今年はやや増加の傾向にあった。

もちろん大部分の生徒は良いのであるが、極少数の者が脱線しようとするのである。数の上から云うと、昭和四七年度は補導件数三百件余りであったが、今年度は第二学期末において既に三百件を上廻っている。

その中一番多いのは何といっても交通に関する事件であった。第一学期は事故九件、違反五三件、第二学期に入り事故二〇件、違反五一件という数に上っている。しかも二学期に入ってその為死亡した者を三名も出したことは誠に残念の極みである。

一名は八月自転車に乗っていてトラックと衝突したのであるが、後の二名は何れも自動二輪に乗っていての災害であった。昔から足乳根の母といわれているが、ここまで育てて来て漸く一人前になろうとする直前に、こうしたことで生命を亡くした子を持つ親の心中如何ばかりであろうと全く察するに余りある。

学校としても捨ておないというので、職員会議や先生方の研修会をも開いて、その打開策を考え保護者各位にも通達を出し、その自覚を促すと共に、生徒会にも働きかけて自重するよう呼びかけた。その為かどうか分らないが現在迄にやや減少の傾向を示し、違反者の数も激減している。やはりお互いが交通の安全に強い関心を持ち学校の指導方針に従って貰えば、ある程度その災害を防ぐことが出来るのではあるまいか。

文明は人間に便利な世界を作ってくれる反面、人間の生命を奪う危険をも与える。

お互い文明になればなる程、もっと真剣に生命の尊重ということを考え直さなければならないと思う。

次に統計の上から見ると喫煙者の多いことである。これには色々な社会的な状況もあろうと思うが、未成年者が煙草を吸ってはいけないということは法律で定められているだけでなく、発達盛りの少年の心身を如何に蝕むかということをもっと考え直さなければいけない。そしてこのことは色々な非行とも連ってくるのである。

最近の少年には自己抑制の力が少いといわれている。

次に犯罪行為として多いのは県下の統計でも窃盗事件が一番である。その大部分は万引という。本校においても時々そうした不心得者が出る。

他人のものを盗むのは悪いということは誰でも分っている。分っていながら行われる。それは今日の営業の有り方にも問題があるが、根本は人の心であろう。自分の欲しい物があれば、欲しいと思うのは誰しも同じことではあるが、そこがモラルの欠如ということに帰する。道徳感の欠如と云おうか、自己抑制力の不足と云おうか、ともかく他人の物は例え如何なる小さなものでも、絶体無断で自分の手にしてはいけないと云う強い信念を持って居れば、そんなことは起らない筈である。

色々と表れた事件の中の主なるものを挙げたのであるが、一年間の件数から云えば三百から四百であるが、これを人数から云えば、二、三百人であろう。約一割乃至二割の生徒が学校を荒しているのであって、善良な生徒が多いにもかかわらず、総てがその影に隠れてしまうことは極めて遺憾なことである。何とかそうした生徒の出て来ない学校にしたいものである。

生徒諸君は、常に三千人の大集団の中の一員であるということを寸時も忘れないで、如何なる困難にもめげず、打克ってゆくという与えられた若さの特権を十分に生かして欲しいことを、終りに切に希うものである。

論説　友人

自分の身近な人たち、何らかの形でつながりのある人たちの中で、友だち・なかま・同級生と呼ばれる関係が、最も親しみ易いグループなのではないか。

友だち・なかま・同級生ということばには、厳密には相違があるのかも知れない。ことばのニュアンスの違いと言うより、そのことばの中味が問題なのかも知れない。

しかし、今、取り上げているのは、お互友だち同志だ、という心のつながりを考えてみたいと思う。

小学から中学・高校へと学校生活が続いて、その間それぞれに友だちがふえ、そして減っていった。

口論もし、けんかもし。だが、心から安らぎを感じ頼りにもなり、泣くも笑うも一体であるという関係・つながりを持てる友だちがあるかということなのである。

つまり、親友があるかということである。

気楽に遊べる友だち、大声を挙げて騒ぎ合える友だち、何となく同調してくれる友だち。これらの友だちもあってよい。

特に同じ学校に学ぶ者として、自分の周りに、このような友だちがあってこそ若人の特権として当然であろう。自分もまたその一人であるべきだと思う。

だが、そうした安易さの中で、中味のある、心のつながりを持つことが出来るだろうか。

われわれ高校生、特に卒業したら実社会へ出て、人生の波を乗り越えなければならない立場にある実業高校生は、いわゆる友人関係にあっても、単に、仲よく気楽に遊べる友だちだけでは不充分だと考えなければならない。

自分が信頼される人間になり、相手を心から信頼しともに泣き、ともに笑える友だち同志――そういう関係がもてるようにならねばならないということなのだ。

人間回復、人間愛等ということばがさかんに使われるようになった。

所得倍増、生産拡充、余暇、レジャーから、公害排除、環境保全、社会福祉へと変わりつつある。

人間愛に基づいた平和な自由な社会を作らねばならないという方向へ転換しつつある現代。

われわれ若人は、その根幹となるべき位置に立たされているのである。

自分自身を顧みて、大いに為すべきことを自覚し、友だちと励まし合い助け合い理想社会の実現に、力いっぱい努力したいものである。

そのためには、ぜひとも心のつながりを持てる友だちを得ることが必要なのである。

己のために苦言を呈してくれる友だち。しかも、それが素直に聞き入れられる、そういう関係にある友だち、己が逆境に立たされても暖かく見守ってくれる友だち。

このような友だちになり得るよう、そのような友だちが得られるようにありたいものである。

素朴な意見

三年生の声

○試験も終って卒業だ。三年間に何をしたというのか。試験、試験が苦になったが……。

○高校三年間に得たものはおとなの真似だけだったのではないか。

要領よく、にらまれないで過ごした――そんな安易な日々だけだったような気がする。

○親のすすめで大学受験をする。その方が気楽だものなあ。

合格できるだろう。担任の先生も、そう言っておられるから。

○大学生活に何となく魅力を感じていたが、英語・数学に自信が無いから就職に決めた。

今になって、サボったことが悔やまれる。

○高校生活って何か。卒業を前にして考えてみた。もい一度やり直したら、ほんとうのことがわかるのかも知れない。

○どうやら卒業できるという解放感みたいなものがある。

工学だの計測だの大事なものだとはわかっていながら、結局むずかしくて身につかなかった。

○自分の能力からいって、選択を間違えたと思う。途中でやめようかと思ったことが何度かある。その度、両親やなんかに説得された。とに角、卒業だけしなさいとね。

就職できるのだから、これからが自分の力次第だと思っている。

○就職。そのことだけで楽しい。誰にも文句を言われないからな。

○正直いって、いわゆる学力は向上したのか疑問だが、何となく大人になったような気がする。

親や先生の話がわかるようになったと思う。

それが高校三年間の勉強の賜か。

○クラブ活動が総てみたいだった。だが、よく頑張ったものだと思う。

体力というか、その限界みたいなものを感じたがよく耐えられたと思う。

○気が小さいので、踏み外さないよう努めた。

しかし、その事がとてもよかったと思っている。

おかげで就職も志望どおりだったし。

○自分とは何か。その答えが出ていないが、三年間安気でけっこう面白かった。

一年生の声

○高校生になってから、どうして高校へ入いるのだろうか考えてみた。

「何となく入学した。」

「家の人が高校ぐらい出ていないと将来困るから」とか「友だちも皆進学するので」というように、高校に対する期待や目的を持たず何となく入学した者が多いと思う。

高校時代は人生で最も大切な時期だから有意義なものにしていきたい。

ただ勉強だけでなく、勉強以外の教育活動を通して人間形成を築き上げるようにしたい。

○朝、学校の道で、随所にうすいカバンが目につく。学習用具は殆んど無く、弁当と帽子をはいっている。その人たちは、授業になると、他のクラスに教科書等を借りに行くのを常としている。

いったい何のために学校へ通っているのだろうか単に、家と学校の間を行き来しているだけで、全く無駄なことであり、大切な青春を無意味に過ごしていることだと思う。

日々の学習生活に耐えて行けないのなら、社会へ出ても大成することなく人生の落伍者になってしまうことが多いと思う。

○僕達の学校は規則がきびしいとよくみんなの話になる。

外の学校と比べて、きびし過ぎるということである。長髪・帽子・夏服などのことをよく聞かされる。

ごく普通の髪型をして、帽子を被って登校することがどうして出来ないのかと先生から注意される生徒が一年生にも多い。

この規則を守ることは、そんなに苦痛だとは思わない。

名電工の校則である以上素直に従えばよいのだ。

他校の生徒へのコンプレックスの現われであると思う。

それよりも、現在の学校をみんなで協力して、良い学校にして行くことを考えたい。

高校生とは

三年生には三年生らしいものがうかがえ、一年生には極めて素直な姿がみられる。

一体、どう向上し、どう変わったのであろうか。みんなで考えてほしいものである。

人生観、出世、世界の大勢などという大きな問題ではなく、われわれ高校生はどのようにあるべきかを、真剣に考えてもらいたいと思って、その資料を提供したのである。

新任の先生紹介

本年度、ご新任いただいた先生方に、次のようにアンケートをお願いした。

一、最終出身校
二、担任教科名
三、趣味
四、本校生徒の所感
五、本校生徒への希望

教諭　**岩崎　仁**

一、愛知工業大学大学院工学研究科修士課程
二、電気工学Ⅰ、電子工学Ⅰ
三、多趣味とくに『登山』

私が本校の定時制課程を卒業したのは、昭和42年の春でした。その頃は、あまり昼間部の人達と接する機会がありませんでしたが、自分らに比べて勉強の時間の十分にある昼間部の人達が羨ましくてならなかった事が思い出されます。それから6年、当時は夢にも思わなかった母校へ教師として戻ってまいりまして、最初は少々がっかりしました。

というのは、皆さんの勉強に対する熱意が、私が考えていたほどには強くなかったことです。良く言えば、何事に関しても従順であるといえましょうか。ところが一方、クラブ活動などに於ける皆さんの活躍ぶりには、目を見張る思いです。

心臓も裂けんばかりのハードトレーニングに耐えて得られた成果に接すると、まさに無限の可能性が秘められているという表現がぴったりのように思われます。

これからは皆さんのうちに秘められた、このような無限の可能性のほんのわずかでもよいですから、勉強の方面にも向けてくださることを望みます。

教諭　**遠藤喜一郎**

一、南山大学文学部教育学科
二、英語
三、スポーツ（野球、その他の球技）ギター演奏

自分が教えている教科の関係からか、又は余り勉強意欲に欠けるのか、全体的に、ただおとなしくしているだけで積極的に授業を聞いてやろうとか、色々とやってやろうという迫力が乏しい感じがしたのである。第二には、これも最初の事柄と関連あるが、人から言われなければ何もしないよくいえばドライであり、悪くいえば少々ずるいという感じがした次第である。

四、四つ目に述べた事柄の逆の事をすればいいわけであるが、少しでも何事に対しても意欲を持って努力しようという気持を、勉強にもその他の行動に生かしてくれる様に期待するのである。

教諭　**大島　寛**

一、愛知工業大学、電気工学科
二、電気工学Ⅰ、電気応用
電気一般、電気製図
三、スポーツ観戦全般
四、本校生徒は全般的に、その日、その日を何も考えずに無気力に暮している。学問に対しても意欲が無く、そのくせ身の廻りの服装、頭髪に気を配り文句だけは引けを取らない、また言葉使いがなっていない、先生も、生徒も同じで敬語の使い方を知らない生徒が多い様で有る。自分勝手に行動する者も多く、統制もとりにくい。

五、もう少し生活、学問に張りを持ち、自分からもっと率先して難問に飛び付いて行くように心掛けて、後ずさりしない様自分自身で壁をつき破り前進してもらいたい。

学校と云う団体生活だから助け合いの心も必要だ。

教諭　**北川　清**

一、名古屋高等工業学校
二、電気関係教科
三、美術鑑賞　謡曲、写真
四、五、まとめて次葉以下に

高山の町を歩きながら、煙草に火をつけた私は、塵一つないキレイな街に吸いながらを捨てられず、ポケットに入れて持ち帰った。環境が人をつくる、と言われるが、私はキレイな街から行儀の悪さを戒められたことを有難く思い出す。

大勢が集る学校は、考え方も生活習慣も十人十色であろうが、少なくも自分で作り出したゴミぐらいは、自分の手で確実に片付けようではないか。

「考える葦」とはパスカルの言葉だが、「考えて行動する」ことが人間の動物と違うところ――ひとつひとつの行動に、「考えた上で」という裏付けがあって、はじめて人間としての自らを主張する資格が認められるのではなかろうか。

身辺のささやかなことから始めて、一切の行動が思考と確信の土台の上に立つよう、習慣づけてほしいと願っている。

教諭　**斉木治生**

一、東京高等師範学校
二、古典
三、謡曲、囲碁
四、(1)気分が予想外に明るく、安定している。
(2)覇気に乏しい。
(1)各自が自己をよくみつめて、自分の生き方を見定めること。
(2)自分の目的に達する具体的手段を考えること。
(3)毎日を明るく生きるよう（生きがいのあるよう）努力すること。

教諭　**玉置輝男**

一、愛知工業大学、工学部機械工学科
二、機械科
機械設計・機械材料
三、レコード鑑賞
（始めたばかり）
長距離ドライブ
（石油危機でお手あげ）
車の機械いじり
（車をこわしたのも何度か！）
四、生徒の所感・今後の希望本校生徒について、まず第一に感じた事は、協調性の不足ということである。二・三人寄り集まると、群集心理のなせる業か、奇声を発したり、悪ふざけをする傾向が見られる。それを、反映してか、集団行動をとる時に、統率がうまく、とられていない。

さて第二には、積極的な行動力の不足である。H・Rや体育祭、学園祭などの学校行事に対し、関心が薄く中には、それどころかエスケープするものさえ見られる。そこで今後希望することは、もっと自己に自信を持ち、勉学に、クラブ活動に又、学校行事に、積極的に、取り組んでもらいたい。

これからの就職について

四十八年度も残すところわずかとなり、卒業予定者一〇三四名の中、昨年十一月末には就職希望数五二〇名中四四〇名が就職内定し、一月末では殆ど全員が内定し、この春学園から巣立って新しい社会に華々しく活躍しようとしています。

想うに、四十八年度は飛躍的な経済成長によって、求人会社数は優に一六〇〇社を越え、学卒者にとっては正に我が世の春といった感でした。しかるに、昨秋十月六日に勃発した第四次中東戦争は、その副産物として全世界にエネルギー危機という重大問題を引き起し、石油エネルギーによって支えられた現代の工業社会文化社会を、其の根底からゆさぶってエネルギー革命の真唯中にまきこんできたのです。

あらゆる産業部門では、原材料の入手難及び価額の高騰、更には電気ガス石油といった動力源の供給制限に直面し、加速されたインフレ問題にからめて、需要抑制策がとられ経済活動は極端に押えられて景気の落ち込みが予想されるに至りました。

かかる大変革と試練の中にあって、三年生にならんとする諸君の前にはだかる就職は、必ずしも楽観を許さないものがあります。新卒者は金の卵ともてはやされた時期は、もう過去の夢となってしまったのです。

これからの企業は、おそらく求人に対しては、一人でも多く採用しようという姿勢から、少数精鋭主義で望んでくるにちがいないと考へられます。

今までの大多数の会社の選考試験を見ますと、学科試験としては、一般常識程度のものが圧倒的に多く、おおむね面接によって採否が定められるのが実状でしたが、来年度は、そんな甘いものではなく可成り厳しい選考が予想されます。今こそ諸君の能力真価を問われる年であることを、十分認識しなければなりません。

現代はまさに革新の時代にはいったのです。すべての企業は、新しい知識と創造的な思考をもって、危機を乗り切ろうとしています。そして、それを裏づけるバイタリティに富んだヤングパワーが必要とされているのです。

諸君は限られた期間をフルに活用して、勉学に又技能の練磨に励むときではないでしょうか。参考までに四十八年度の就職状況を紹介してみましょう。

(1) 進路状況
(イ)卒業予定数一〇三四名
(ロ)就職希望数　五二〇名
（自家営業を含む）
(ハ)進学希望数　五一四名
（各種学校を含む）

(2) 規模別就職状況
(イ)大企業　五一％
(ロ)中企業　二九％
(ハ)小企業　二〇％

(3) 業態別就職状況
(イ)製造業　五一％
(ロ)建設業　六・二％
(ハ)卸小売　一九％
(ニ)運輸通信　六・八％
(ホ)電気ガス水道　二％
(ヘ)サービス業　五・六％
(ト)公務　二％
(チ)其他　五・八％
以上
（二月末調査）

文化祭模擬店 (10.14)

シキシマパン
クラブ クラスの会合に!!
生クリームケーキ、
菓子袋詰、色々お値
打に予約承ります。
☎ 711-4434
合資会社　紅扇

ヲギソのパン
ヲギソ製菓株式会社
名古屋市昭和区川名本町1の10
TEL (751) 2858 2859

各種板硝子・鏡
井伊ガラス
共和式ドア

健康の環を世界に
広げる森永乳業……
春です毎日午乳を飲んで
立派な身体を作りましょう
森永牛乳
玉木販売所　千種区上野町五の六五
TEL (711)2235

クラブ活動

美術部

今年は一年生から二十五名程の入部希望者があったけれども、設備の関係上十三名に、二年生四名を加えて、五月頃から練習に入った。

一年生は二十号大、二年生は三十号大の作品を作ることにした。

1、好きな作品を模写することによって、作画の方法を理解する。

2、基礎練習として、石こうデッサンを研究する。

3、写生等による自由制作。

以上の三方法によっての練習はどうであったか。

ときには何やら嬉しくなったこともあった。何が何だか分らなかった。

絵は勝手に描けばよいと思ったのに……。真面目に練習を続けていると、何とかなりそうだ。

みんなが色色に感じたであろう。それでは一年間を反省して見ると、

1、絵画に付いて何かを理解した人。

2、自分の表現技巧を見付けた人。

3、何だか絵画に興味ができた人。

4、相当に努力したが、見当が付かなかった人。

5、殆ど勉強しなかった人。

大体右のようになると思う。一層頑張りたいと思います。

寒椿

教諭　小竹保一

○寒日照いく日つづくか庭土の乾きに乾き砂埃立つ
○久々の雨に濡れたる苔の上に寒椿の花散りてゐにけり
○湯上りに秋田りんごの味よきを食べつつ思ふ送りくれし子を
○床の間に飾れとわが子みちのくの雑子の剝製送りくれたり
○雪ふかく帰りの遅き母を待つ幼き子らはさびしくあらむ
○たらちねの母より十年長らへし妻すこやかに孫と遊べる
○年ごとに亡きたらちねの物腰に似て来し妻は六十路越えける
○軽き塵払ひてひらく洋傘にしみ入るごとく春の雨降る
○春立ちて光り輝く神苑にもみ合ふ裸身みな逞しき
○春日さす神の斎庭にもみ合へる裸形の群れは渦を巻きつつ

十一回目の全国優勝なる
高校卓球選手権大会

昭和四十八年度、第四十二回全国高等学校卓球選手権大会は、八月五日から十日までの六日間、三重県総合競技場（伊勢市）で開かれた。

男子学校対抗は、二十三回連続出場を誇る名電工高が、昭和十二年第六回大会に初出場して以来、通算十一度目の優勝を記録し、十回優勝の青森商業高校を抜いて、単独トップにたった。

団体戦記録

第二回戦
○本校　4－0　名護高

第三回戦
○本校　4－1　秋田商

第四回戦
○本校　4－1　秋田商

準決勝
○本校　4－2　興国商
今福靖　2－0　阪井
今福護　1
21－18　21－13
21－16
1　松井
大谷

2大嶋　2－0　阪井
3今福靖　0－2　阿部
4前田　1－2　藤原
5森　2－0　河野
6今福護　2－0　祐島
7森　藤原

決勝
○本校　4－3　熊谷商
今福靖　1
今福護　2
11－21　21－10　13－21
2　大塚

3今福護　1
11－21　21－10　13－21
2　大谷

4森　0
15－21　12－21
2　松井

5前田　2
26－24　21－11　20－22
1　金室

6今福靖　2
21－10　20－22　21－14
1　近藤

7森　2
21－17　21－15
0　大塚

観戦記

準決勝　二連勝を目指す興国高と十一度目の優勝新記録にかける名電工高は、ダブルスが勝負という大方の予想通り、これに勝った本校が決勝に進出。

かくして、決勝は新記録目前の名電工高対念願の初優勝をと意気ごむ熊谷商高の対決となった。

トップのダブルスは、共に全勝同志の対戦。今福組はやや不調の弟を、兄が旺盛な気力でカバーしてこれに快勝した。

しかし、熊谷商は、大谷が不調とはいえ、本校のエース格の今福弟を破るなど断然リードし、3対1としたあたりは完全に熊谷商の初優勝ムードであった。

だが、ここで円陣を組み精神力の立て直しを計った本校は、5番の前田がよくセットオール、ジュースの末、金室のカットを打ち抜き、これに、今福兄、森と連続3点を奪取し、苦闘の後見事輝く十一度目の優勝を遂げたのである。

（ニッタク・ニュースより抜粋）

私達は最高の目標であるインターハイには運よく優勝できました。

これは、前学園長ご逝去後初めてのことであり、前学園長のご恩と、我々運動部に対し、その路線を継承して下さった現学園長の恩情に万分の一でもお報いすることが出来たと思っています。

これは安藤監督のことばであるが、この後に行なわれた国体・全日本と大切な大会で、いずれも有力視されながら不成績に終ったことは、深く反省の必要があり今後この間の練習方法並みに、気力の充実を如何に継続せしめるか等、卓球を通じての人間形成と併せ、工夫して行く考えであると部員一同覚悟を新たにしている。

サッカー部

本校にサッカー部が誕生して7年、本年度の各大会をふりかえってみると、今までにない好成績を挙げたと思う。春の総合体育大会北地区予選こそ惨敗したが夏休みに行なわれた冬のインターハイ北地区予選では、北高、長久手、市工芸高校とあらそったAブロックリーグ戦で、みごと1位を勝取り、県大会では、北地区2位の東山工校をやぶり、強敵、熱田高校に最後までくいさがった準々決勝戦を見ても、確実に力をつけてきたと思われる。

さらに、49年1月、新春早々に行なわれた新人戦北支部大会では、1回戦、同朋高校に6対1、2回戦、千種高校に2対0、3回戦愛知工校に3対2、県大会出場をかけた決勝対愛知高校戦では、60分の試合時間で決着がつかず、延長の20分間もともに0対0、80分間、死力をつくして戦った末、ペナルティキック合戦で涙をのんだ試合。

このように、今年は充実した年であったが、来年度は、3年生、2年生が主力であるので、今年以上の成績が挙げれるものと思う。

名工大グランドを借りて大学生の使用している間をぬって練習しているが、キャップテンを中心に、全員が良くまとまっているので今後の活躍が楽しみである。

バスケット部

クラブ発足以来七年目、低調を続けたバスケット部であるが、ようやく春のきざしをみ、本年度の活躍は大巾にアップされた。一人二人のポイントゲッターの差がチーム全体の成績を如何に左右するか、つくづく感ぜさせられた。昨年四月大型新人の入部によって名電工バスケットの横顔は一新した。一年生ながら本年茨城国体県代表候補であり日米対抗候補選手に選ばれる栄光は、チーム全体のムードをかえ「いざやらんかな」の気構えで毎日の練習に精進を続けている。

本年度の主な戦跡をふりかえり来年度への資としたいと念願している。

一、インターハイ北地区予選（第二位）
決勝戦
本校 72　32－51　107　名城大附高
40－56

一、市民スポーツ祭（第二位）
決勝戦
本校 68　29－47　87　名城大附高
39－40

一、一年生大会（優勝）
決勝戦
本校 110　54－34　88　名城大附高
56－54

一、私学祭（第二位）
決勝戦
本校 89　47－45　95　名城大附高
42－50

一、新人戦北地区予選（優勝）
決勝戦
本校 99　39－40　89　名城大附高
60－49

一、同県大会　一回戦
本校 115　62－32　75　桜台高
53－43

準々決勝
本校 90　44－50　92　時習館
40－34
6－8

陸上競技部

昨年の成績を振り返るとインターハイ名北大会総合優勝（三年連続）名北新人大会総合優勝、渥美半島駅伝大会優勝、インターハイ県大会総合四位、県新人大会総合三位、東海高校駅伝大会六位、この東海大会で六位に入賞した事は、特に一年生、二年生の活躍が大きく今年の全国高校駅伝大会初出場も夢ではないと思っています。

陸上競技部はここ数年に全国大会の入賞も多く過去優勝二回、三位、五位、六位、各一回、四位二回と七回の入賞経験があり、愛知県はもちろん全国にも名の知られるクラブにまでなり四十三名の部員はもっと、もっと数多くの全国大会入賞、駅伝の全国大会出場を目標に頑張っています。

全日本コンクール金賞受賞
吹奏楽部

吹奏楽部は、本年も別表の通り相変らず、多忙な活動を行った。試験をぬっての練習と演奏活動で、可成り充実した部活動と言えよう。

吹奏楽部の活動としての両翼は、何と言っても、コンクールと定期演奏会である。

先づコンクールは、愛知県大会が、八月二十四日、名古屋市民会館中ホールで行われ、高校の部で県下十九団体の中、最高位の成績で金賞受賞、代表権を獲得した。次いで東海大会は、九月三十日、名古屋市公会堂に各県よりの代表十二団体を集めて行われ、これも一席にて金賞獲得、久々の全国大会（先回の出場は七年前の仙台大会への初出場）二回目の出場の栄冠を得た。

全国大会は、新装なった名古屋市民会館大ホールに、全国十地区より、五部門の代表、四十四団体を集め、菊花香る十一月三日、四日の二日間盛大に開催された。

高校の部は、コンクールの最終を飾って四日の午後行われ、我が名電工高は、課題曲の名取吾朗作曲「吹奏楽の為のアラベスク」に次いで、自由曲、ヴァスラヴ・ネリベリ作曲の「交響的断章」の難曲を、みごとに日頃の練習の実力を充分に発揮して演奏、念願の全日本コンクールでの金賞受賞（最高賞）の栄誉に輝いた。

コンクールの総評として、本年は特に高校部門のハイレベルが目立ったとのことで、この部門での金賞受賞は高く評価されてよい。

尚、当日の演奏の二曲は実況録音され、〝日本の吹奏楽七三年第二集（高校・一般）〟として、他校の金賞グループの自由曲と共に、CBSソニーよりレコードとして発賣されている。（レコード番号は、SOEH21）。しかも課題曲の「吹奏楽の為のアラベスク」は、名電工高の演奏が模範として収録されているもので、当日の演奏の優秀さが、しのばれる。

又従来出場の中部日本吹奏楽コンクールに於ても、出場連続十二回優勝の壮挙をなしとげ、併せて文部大臣賞という特別賞を受けている。

コンクールに続き、一月十三日には、愛知勤労会館ホールに於て、一時、五時の二回にわたり、第九回定期演奏会を開催した。パロックの名曲、オリジナル曲ステージドリルとポピュラーの四つのステージに分れそれぞれ特徴を生かし、若さ溢れた楽しい演奏会であった。尚当日の演奏会は放送部のアナウンスも当を得た立派なもので、生徒会の運営も細心の配慮がうかがわれ、すがすがしい演奏会であった。

十五名の卒業生を送り出した吹奏楽部では、来年度も更に大きな躍進をと、二月より新編成での練習に入っている。

吹奏楽部1年のあゆみ

4／7	入学式式典
4／14	新入生親迎大会
5／27	大杉子供会運動会
6／3	中日本フェンシング大会開会式
6／9	名古屋クリニック演奏会
6／17	倫理研究所弁論大会特別演奏
7／20	五大都市体育大会結団式
7／29	夏まつり市中パレード
8／2	インターハイ、フェンシング開会式
8／24	全日本コンクール愛知大会
9／13	日中バトミントン開会式
9／15	中日吹奏楽コンクール名古屋大会
9／30	全日本コンクール東海大会
10／7	中日本吹奏楽コンクール本大会
10／8	運動会
10／13	名古屋まつり、バンドフェスティバル
10／14	名古屋まつり市中パレード
10／15	文化祭（音楽会）
11／4	全日本コンクール全国大会
11／6	陽和中文化祭、多度町連合音楽会
11／16	東海学生卓球選手権開会式 四日市中部中学文化祭
11／18	ダイナミック・バンド＆バトンフェスティバル
11／21	豊田市高岡中・東加茂旭中文化祭
12／2	名古屋刑務所慰問
12／23	全日本マーチングバンドフェスティバル（東京）
1／13	第9回吹奏楽部定期演奏会
1／27	愛知県管楽器アンサンブルコンテスト

写真クラブ

本年は部はじまって以来最高の五一名の部員となり、そこへ一年生の特別教育活動として九月から部員以外に九〇名を預ることになり非常に賑かな一年であった。

私学展に四点力作を出品他校の作品に比べ損色なくむしろ優秀な出来ばえであった。校内展示会も部員それぞれ力作をよせ又部外のものも非常に多く出品され感謝している。掲示場の面積の都合で充分に掲出出来なかったことをお詫びしておきます。

部として私学展及本校の展示会以外四季折々に募集されている写真展に積極的に応募することが望ましい。この様にすると、それぞれの課題に従って作品をつくる目標が出来ると思う。

又展示会に一般から応募されたものの中、本人の撮影と思われないもの、先輩の作品を借りて来て、既に我々の印象にある作品があり、甚だしいのは市場に販売されている写真を出されたものがあった。今後諸君自身の力作を出して戴きたい。

本年私の印象に残った作品は、私学展に出し引つづき展示会にも掲出したE2A熊谷君の「妻籠（つまご）宿にて」というスナップ写真で、観光に行って、これだけの作品を限られた状況の下で物にしたのは、チャンスも良かったにしろ立派なものである。又修学旅行の作品の中にもなかなか傑作があり、部員以外の者にも腕達者が居るのは、非常に心強く思った。

唯記念写真として級友を並べて撮影するという写真も悪くはないが、景色なりスナップなりを心掛けて撮して欲しいと思います。

来年度部員及カメラ愛好の諸君の活躍を期待しています。

私の学生時代

教諭　近藤孝

小学五年頃、太平洋戦争は熾烈となり、敵機の空襲が始まった。夜になるときまって空襲のサイレンが鳴る。急いで庭の防空壕に飛び込む。爆弾の炸裂する音を聞き防空壕の中で震えていた。空襲が激しくなり小学校の集団疎開が始まった。私達の小学校も岐阜県の田舎の寺に集団疎開した。田圃の中の森に囲まれた淋しい寺だった。寺の本堂で昼間は勉強し、夜はずらっと蒲団を敷いて寝た。雨の夜は墓地に青白く光るものが見え、何とも無気味であった。便所へ行くのがこわくて友達を起して行った。

B29は毎日、寺の上を東南に向けて飛んで行った。ある日何百機もの大編隊が次から次へと飛んで行くのを見た。暫くたつと地響きとともに真黒い煙が東南の空に広がるのが見えた。皆、煙の見える所へ出て心配そうに見ていた。誰かが「名古屋は全滅だ」と叫んだ。皆自分の両親や家の事を心配してわんわん泣き出した。この時、名古屋は大空襲を受け名古屋城が燃えたのもこの日だったと記憶している。

戦争が終り名古屋へ帰って見ると町は焼野原だった。その頃アメリカ軍が進駐して来た。ガムを咬みながらジープに我がもの顔で乗って走り廻っていた。

終戦の翌年、旧制中学に入学した。教科書も満足になかったが授業は厳格で恐い先生が多かった。試験は各科目40点以上、全科目平均60点以上ないと及第出来なかった。試験の時は必死で勉強した。

その後、学校制度の改革により中学校と女学校は統合され高校になった。小学区制が実施され学区の高校に転校した。

高校は男女共学となり和やかな雰囲気に変わった。始めての男女共学でうきうきしたものだ。特に運動会、文化祭などは楽しかった。辛かったのは耐寒訓練のマラソンだった。15kmを走るのだが足が棒のようになり走り切るのに死物狂いだった。

その頃、展覧会で模型の電車が走っているのを見て虜になった。電気の事は知識がなかったが友達に聞いたり本で調べて模型電車作りに熱中した。自作した電車が走るのを見て有頂天になった。夢中になりすぎ、よく叱られた。

その後ラジオに興味を持ち当時最新型の5球スーパーヘトロダイン受信機を組立てた。苦労して組立てたラジオは音質がよく自慢だったが、ハンダ付が悪く時々故障して困った。

科学に興味を持っていたので大学では物理を勉強した。大学は静かな見晴の良い丘の上にあって、落着いて勉強が出来た。

卒業研究は「渦について」のテーマで3人の協同研究だった。水槽とカメラを使って水中に出来る渦の変化を研究することであった。装置は水中の渦が写真に撮影出来る様に改良工夫し、付属の機械実習場で製作した。水中の渦を鮮明に撮影するのは容易ではなかった。何度も失敗を重ねたがやっと写真の撮影に成功した。深さによって渦が変化する写真も撮影し多くの資料が得られた。準備を始めてから研究をまとめるのに一年間を要した。簡単な事を調べるだけで一年間の時間と労力を要するから新しい発見とか法則をつくり出すのはどれほど困難な事か体験出来た。

このように戦後の混乱期に学生生活を過した。当時としては何の特徴もない平凡な学生生活だったが、苦難に耐え、頑張る事だけは身に付けたように思う。

編集後記

○暦の上で春だというが、かえって寒くなったようだ。

その春に、また千余名の先輩を送ることになった。人それぞれに美しいと、教えられたが、それぞれに何かを得られて卒業されるのである。おめでたいことだと思う。

○名電工高生として誇りを持ちたい。胸を張って、名電の生徒であると歩きたい。

みんなで、手をつないでその誇りをつかもうではないか。

大声で叫んでみた。

○日本一の名電工！

これが校長先生の理想なのだと聞いた。

卓球・ブラスバンド等たしかに日本一だ。

その日本一を一つずつふやしてゆけないものかと思う。

そして、名実ともに日本一の夢を実現できないものかと思う。

○夢といえば、今の高校生には夢が無さすぎるのだそうだ。

そして、昔の高校生の話が出る。

ちょっと魅力のあるような気もする。

○ゴミが見立つ。紙くずが多い。

X先生曰わく、心がすきだらけだからだと。

すきだらけというより、だらけて居るのだと思う。

勝海舟でも読んでみようかと思う。

○「お早う。」「オーサッ。」

こんなことばが元気よくひびいてくるようになればしめたものだ。

Y先生が言われた。

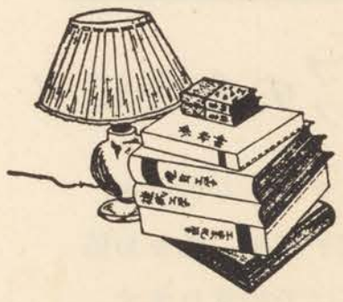
ほんとうだと思う。

諸君！　頑張ろう。

新聞部員募集中
○希望者は部室まで○

カラープリント　○免許証明用撮影　○2分間写真もどうぞ
純正仕上
名電高生格安!!
若水カメラ　名電工前 711－1869

キハラ製図器
三角スケール（竹・セル張り）
曲線定規
T型定規
その他製図用具一式
コクヨノート一式
名古屋電気工業高等学校御指定
大附通商株式会社
TEL (231) 1744・3354

辞書・参考書の専門店

電気学園指定書店
正友館書店
千種区鏡池通2－13　城山中学校南
TEL (751) 2717